

3

令和9年度事業案について

区の目標

「安全・安心のまち、人がつながり・いきいきと暮らせるまち、子どもが輝くまち、明日に誇れるまち」の実現

区の使命

- ・災害に強く、安全で安心な美しいまちの実現
- ・つながりが育成され、地域コミュニティが活性化し、いきいきと健康で生活できるまちの実現
- ・子どもの笑顔が輝き子育てに伴う喜びが実感できるまち、未来社会を担う人材が育成されるまちの実現
- ・まちのにぎわいと魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたい、訪れたい、住みたいと思うまちの実現



都島区将来ビジョン 2030 めざすべき将来像

1 安全・安心のまち

1-1 防災のまちづくり

全区民が災害の備えをし、助け合って避難行動できる状態。

1-2 防犯のまちづくり

全区民が防犯を意識し、犯罪を抑止する環境が整っている状態。

1-3 安全で美しいまちづくり

ごみのポイ捨てや放置自転車が減少し、環境に優しく、誰もが安全に通行ができる状態。

3 子どもが輝くまち

3-1 安心して子育てできるまちづくり

授乳や育児について相談しやすい環境が整い、育児不安が解消され、いきいきと健康に暮らせる状態。子どもや子育て世帯がライフステージに応じた支援を受けることで、子どもの笑顔が輝き、子育てに伴う喜びが実感できる状態。

3-2 未来社会を担う人材育成

経済状況や家庭環境に左右されることなく、すべての子どもが将来の夢や目標をもち、未来社会を担う人材が育成される状態。

2 人がつながり・いきいきと暮らせるまち

2-1 コミュニティ豊かなまちづくり

これまで培われてきた人と人との「つながり」や「きずな」を礎にしながら、新たな生活様式を踏まえつつ、あらゆる世代が生涯学習や地域活動への参加・参画による「まなび」を通してつながりを育成し、持続的に地域コミュニティが活性している状態。

2-2 いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

地域に福祉の身近な相談窓口があり、地域住民がお互いに見守り活動を行うことにより、安心して生活できる状態。また、区民がいきいきと健康で生活することができる状態。

4 明日に誇れるまち

4-1 にぎわいと魅力あるまちづくり

三方を川に囲まれた都島区の恵まれた自然環境、立地、歴史・文化、産業などの特色を活かした地域の活性化が図られ、まちのにぎわいと魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態。

4-2 区の魅力創出

さまざまな媒体を通して、暮らしに関する情報や都島区の魅力を発信し、区内外に届けることで区民や来街者等が関心を持ち、都市イメージの向上が図られている状態。

3

令和 9 年度事業案について

1. 安全・安心のまち

1-1 防災のまちづくり

1-2 防犯のまちづくり

1-3 安全で美しいまちづくり

現状・課題

防災のまちづくり

防災訓練や防災 BOOK の活用により、地域における助け合い（共助）の構築は進みつつあるが、さらなる人材の掘り起こしを進める必要がある。

防犯のまちづくり

大阪重点犯罪 5 手口の発生件数は減少している一方で、特殊詐欺の認知件数は高止まりしており、啓発活動等の対策が必要である。また、道路交通法が一部改正されたことに伴い、正しい自転車マナーの浸透が求められていることから、引き続き交通安全意識の向上が必要である。

安全で美しいまちづくり

地域清掃活動を通じて地域コミュニティの醸成を図っている結果、活動への参加者は増加傾向にある。一方で、参加者が固定化されていることから、新規層の参加を促進する取組が必要である。

9 年度取組案

防災のまちづくり

防災 BOOK を活用した啓発、ユース防災リーダー育成の取組を継続しつつ、区内在住の防災士と地域が繋がるよう支援することで、地域における助け合い（共助）の構築を進めていく。

防犯のまちづくり

自動通話録音機の貸与等、特殊詐欺の被害に遭わないための意識向上に向けた啓発活動や、学校園をはじめとした幅広い年齢層への自転車マナーアップ等の出前講座を行うとともに、さまざまな媒体を活用した情報発信を実施する。

安全で美しいまちづくり

地域住民や団体への働きかけを継続するとともに、幅広い年齢層を取り込むための清掃イベントを企画することで新規層の取り込みにつなげ、地域と団体等のネットワークの構築を図る。



◀防災 BOOK を活用した啓発
小学校の防災授業にて、都島区防災 BOOK の内容を紹介しながら、在宅避難についての啓発を行っている。



◀ユース防災リーダー放水訓練
都島消防署の専門的な指導のもと、地域の防災リーダーとともに取り組んだ



◀都島警察署と共催の交通安全教室
実際に自転車に乗車しコースを回することで正しい自転車の乗り方を学んでもらう。



▲淀川大川クリーン大作戦
淀川河川レンジャーと共催で淀川河川公園及び毛馬桜之宮公園を清掃し、環境美化意識の向上を図っている。



◀区内各所での清掃活動
「区内の公園や会社周辺、川沿いなどを区民や企業が主体となって清掃し、まちをきれいにする意識（美化意識）の向上を図っている

3

令和 9 年度事業案について

2. 人がつながり・いきいきと暮らせるまち

2-1 コミュニティ豊かなまちづくり

2-2 いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

現状・課題

コミュニティ豊かなまちづくり

個人の生活様式や価値観の多様化などにより、人と人とのつながりの希薄化が進むとともに、地域活動の担い手不足やライフスタイルの変化などにより地域活動への参加意識が低下している。

いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

地域コミュニティの希薄化や社会的孤立を背景に、福祉課題の「複雑化・多様化・深刻化」が進み、ひとり暮らしの高齢者や障がい者のいる世帯、子育てに悩みを抱える世帯などの地域での孤立や災害時における要援護者の把握などが課題となっている。また、いずれの相談機関にもつながらず、亡くなった状態で発見されるケースも起きていることから、地域における要援護者に対する見守りの必要性はより増している。

9 年度の実践案

コミュニティ豊かなまちづくり

多様な広報媒体を通じた地域の交流・活動に関する情報を発信するとともに、住民同士のつながりの強化に加えて企業・NPO 等との交流を促進する。あわせて、町会加入促進や担い手拡大など、地域の実情に即した支援を行い、より多くの住民参加による自律的な地域運営を推進する。

いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

各地域の福祉会館等に地域福祉コーディネーターを配置し、地域住民からさまざまな相談に応じるとともに、相談内容に応じ、適切に関係機関につなぐ。

また、関係機関と連携し、福祉サービスにつながない要援護者にアウトリーチ（本人から要請がなくても積極的に援助を行うこと）を行い、自ら相談できない人を発見し支援につなげていくとともに、見守り活動のコーディネートを行い、見守り活動が自主的かつ円滑に進むよう、支援体制を整備する。



◀百歳体操

定期的・継続的に地域で人と人が楽しみながら交流できることから、高齢者の孤立を防ぎ見守りになっている。

▲地域と企業・専門学校との交流会

地域と他団体とのつながりづくりの場を設け、連携・協働に向けた支援を行っている



◀「町会お役立ち BOOK」

町会役員等向けに、事務負担を軽減しながら住民とのつながりをつくるためのヒント集を作成し、公開している。



◀福祉コーディネーターによる相談

・地域福祉コーディネーターによる、電話・訪問・来所での見守り活動件数
→令和 7 年度 9,459 件

・地域福祉コーディネーターが住民から受けた福祉相談を地域包括支援センターやランチと連携した件数
→令和 7 年度 4,470 件

3

令和 9 年度事業案について

3. 子どもが輝くまち

3-1 安心して子育てできるまちづくり

3-2 未来社会を担う人材育成

現状・課題

安心して子育てできるまちづくり

子育ての不安や悩みを保護者だけで抱える傾向にあり、社会全体に頼るという意識が定着していない。

また、発達障がいやその疑いのある子どもへの関わり方及び、不登校・行き渋りなどによる社会的な孤立を懸念する相談が増加している。こうした保護者の不安に寄り添い、子育ての不安感・負担感を軽減する必要がある。

また、コミュニティが変化し、出産・育児の手技等に関して相談できる者が周囲に少ない。

未来社会を担う人材育成

SNS など子どもたちを取り巻く情報環境が複雑・多様化するとともに、子どもを支える人や場が不足しており、将来の夢や目標を持つことのできるような、学びや遊びを通じた子どもの成長の機会が失われている。



▲子育て EXPO にて、子育て相談を同時開催

保育所、認定こども園、幼稚園など今後の入園先などの相談と同時に、子育て支援施設の案内や、健康相談、子育て相談も同時開催し、気軽に相談できる場を提供した。



▲都島区課外授業「みやこ塾」

都島区内の中学生及び小学 5・6 年生を対象に、基礎学力の向上等、子どもの習熟度に応じた学力向上及び学習習慣の形成を図るため、課外授業を実施している。

9 年度の取組案

安心して子育てできるまちづくり

保護者の孤立を防ぐため、身近に相談できる場所として子育て支援室の周知を進めるとともに、子育て支援室の情報を様々なツールを活用して分かりやすく発信する。

臨床心理士等による子育て相談、支援関係者・保護者を対象とした発達障がいに関する研修等を実施し、発達障がいや不登校などの課題を抱える子どもやその家族への支援を行う。

就労妊婦や多胎妊婦とその家族が不安なく出産・育児が行えるよう支援するとともに、産後の授乳や子育てについて相談しやすいよう身近な地域等で講座や教室を行う。

未来社会を担う人材育成

ネットや SNS 上にあふれる誤情報等を正しく見抜く力（情報リテラシー）を身につける取組を進めるとともに、子どもの社会参加意識の醸成等を図る場を区役所と学校等が連携し取組を進める。

学習支援を含む「子どもの居場所」の開設や、子どもの習熟度に応じた学力向上及び学習習慣の形成を図ることを目的とした「課外授業」の実施等により、子どもを支える環境の充実に取り組む。



◀情報リテラシー講演会
子ども達の情報活用力を育むため、家庭・地域・学校向け内容の講演会を開催した。



◀「みやこじま未来会議」
中学生と都島区役所が連携し、社会参加とまちづくりを考える取組。SDGs や地域課題、将来の都島区像について発表し、意見交換も実施した。

3

令和 9 年度事業案について

4. 明日に誇れるまち

4-1 にぎわいと魅力あるまちづくり

4-2 区の魅力創出

現状・課題

にぎわいと魅力あるまちづくり

三方を川に囲まれた都島区が持つ恵まれた自然環境や、歴史文化といった高いポテンシャルを生かした地域の活性化を図るために、自然環境を活用したイベントの実施や区民等参加型による魅力創出・発信の取組が必要である。

また、今後のまちの変化に対応し、より戦略的な施策展開を行うため、長期的な視点での区の将来像を示す「都島区まちづくりビジョン 2040(令和 8 年 7 月策定)」の実現に向けた取組を進めていく必要がある。

区の魅力創出

区が発信する情報の取得手段として「広報誌」の定着はみられるが、対象や発信する内容に応じて、ホームページや SNS の利用を高める必要がある。また、都島区の恵まれた自然環境、立地、歴史・文化などの資源や魅力向上の取組についての情報発信が必要である。

9 年度の取組案

にぎわいと魅力あるまちづくり

水辺のまちづくりとして大阪府や関連団体と連携・協働したビーチイベントの開催や、区民等自らが魅力を発見・記録・共有するコンテストの実施を通して、区の魅力を高め、区民が誇りをもち住み続けたい、多くの人が訪れたい、住みたいと思う状態をめざす。

また、都島区まちづくりビジョン 2040 に基づき、区内まちづくりプラットフォームの実装、京橋地区でのパイロット・プロジェクトの定着等に向けて取り組む。

区の魅力創出

「大阪市情報発信等最適化施策」(※) に基づき、情報発信する内容やその対象に応じて、ホームページ、SNS などを活用した多角的な広報を推進する。

※市民 QoL の向上に寄与する情報発信実現のため、デジタルツールなどを活用した今後の情報発信・サービス提供の最適化施策について、デジタル統括室及び政策企画室が令和 6 年 3 月に策定したもの。



◀都島区魅力フォトコンテスト
都島区に住み、働き、学び、遊ぶ方が「自慢したくなる」区の魅力を感じられる」をテーマに景観写真を募集。入賞作品は広報誌・ホームページ・とつきカレンダーなど区の魅力発信に活用



▲京橋にぎわいマルシェ(令和 8 年 3 月開催)
京橋エリアのニーズや課題を把握するために開催したイベント。

大阪市公式 LINE アカウントにおいて、都島区を受信設定している登録者数

R6.3 末 1,960人

R7.3 末 2,573人

R8.3 末 3,476人

※令和 6 年 1 月、都島区 LINE アカウントを大阪市公式 LINE アカウントへ移行



◀都島区広報誌